

香椎浜歴史散歩

大平 忠

私の住むマンションから三分歩くと、香椎浜の浜辺に出る。香椎浜は、博多湾の東端に位置し、入江になっている。入江の外海への開口部には橋が架かり、浜辺を一周できる散歩道が作られている。一周は三・二km、眺めも良く年寄りにはちょうど良い散歩道だ。通常はここから右回りに歩いて行く。

浜辺へ出るや、目の前の海中に小さな鳥居が立ち岩礁の上に祠が作られている。御島神社という。神功皇后が朝鮮出征に際しここで神託を得るべく髪を洗って占った謂れがある。

対岸の彼方には山が見える。二神山または立花山と言われ、戦国時代、立花宗茂が島津の大軍に屈せずその猛将の名を轟かせた山である。宗茂は関ヶ原で家康と闘いながら唯一復帰した大名としても名高い。

少し歩くと、歌が三首書かれた飾り板が柵に取付けられている。万葉集に出てくる香椎潟を詠んだ歌だ。そのうちの一首は、大伴家持の父、大伴旅人の歌である。

いざ子供香椎の潟に白妙の

袖さへぬれて朝菜摘みてむ

大伴旅人は、香椎にある神功皇后の廟（香椎宮となったのは明治以後）に詣でに来たとき香椎の潟を眺めて詠んだのであろう。

四分の一周した付近の浜辺は松本清張の「点と線」の犯行現場として登場した。小説では、香椎潟と書かれている。昭和三十年代は、人影も疎らな岩場だったが、その後埋め立てられ、潟から浜と呼ばれるようになった。

浜辺を半周すると、博多湾方向にアイランドシティのマンション群が大きく見えてくる。アイランドシティは、香椎浜と海の中道の間で作られた人工島である。十七ha、パイパイドーム十七個分の広さがある。福岡市が未来都市を目指してこの二十年建設してきた。春には博多と直結の高速道路も完成し、二十分で中心部と繋がる。小・中学校、病院、公園も作られ住民は一万を超しつつあって、福岡市人口増の象徴である。

さらに歩き、遊歩橋「あいたか橋」四百三十mを渡って最後のコースとなる。冬は浜辺の鴨が嬉しい。